

# 学びと誇りが実感できるまち

～読解力をつけること！～

令和2年1月号

庄原市教育委員会  
教育長 牧原 明人



三つ星の上に月ある寒さかな (及川 貞)

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。

本年4月から小学校を皮切りに中学校、高等学校、特別支援学校など、順次新しい学習指導要領の全面実施となります。新たに小学校で加わる英語科をはじめ、各教科、総合的な学習の時間などで、自ら考え、友達としっかり意見交換、議論、話し合いなどを行い、コミュニケーション能力を発揮・向上させながら、深い学びにつながる授業展開を行っていきます。

将来を担う子供たちが、いつでもどこにいても、たとえ厳しい環境の中にあっても、ふるさと庄原の学びや体験が心の支えとなり原動力となる教育の創造を行い、たくましく生き抜いていく力を培います。

さて、今回は「読解力」についてです。

経済協力開発機構（OECD）の「生徒の学習到達度調査（PISA）2018年調査」結果が公表されました。この調査対象は、15歳の生徒（義務教育終了段階の高校1年生）で、3年に1回実施されますが、今回は79か国・地域から約60万人が参加しました。その結果のうち、日本の生徒（6,000人参加）は「科学的応用力」や「数学的応用力」に比べ、「読解力」に課題があるという発表がありました。

## 【調査における読解力の定義について】

自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、社会に参加するために、テキストを理解し、利用し、評価し、熟考し、これに取り組むこと。

※ 「複数ある情報を比較できるか」「事実か意見かの区別を付けながら、情報の質や信ぴょう性を評価できるか」といった能力も読解力として位置付けられています。

特に、正答率が低かった問題は「テキストから情報を探し出す問題」「テキストの質と信ぴょう性を評価する問題」が挙げられていました。また、読解力の自由記述形式の問題において、自分の考えを他者に伝えるように根拠を示して説明することも課題があるとされています。一方、読書好きで読書を肯定的にとらえている生徒ほど、読解力の得点が高い傾向にあることも報告されています。

本市においても、これまでの様々な調査結果から読解力や表現力に課題があることが明らかになっていますので、引き続き、目的に応じた情報選択力や自己表現力、他者とのコミュニケーション能力を高める取り組み、さらに読書活動等に力を入れていきます。